

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 708

2025年7月1日

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

	ページ		ページ
・戦後80年(その3)	2	・山仕事(6月、大平)	17
・兵站無視の日本	3	・板室温泉 幸乃湯 ④	19
・米の需給状況 ④	4	・『銃・日本軍兵士』(前)	21
・「能登のムラは死なない」など8	8	・け・い・じ・ば・ん	26
・お便りから	12	・東京地裁傍聴記	〃

風の中
声はりあひ
南無観世音
山頭火
泉ゆきをさん(日本箱絵の会会長)
(日本習字普及協会)



題 字 佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 泉ゆきをさん(日本箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、海のいきもの②

山仕事(6月、大平)

6月24日(火、くも)。北海道から帰って、1日おいて静岡へ。足がむくみ、疲れが残る。かぞえてみると6月、一日中家に居たのは10日だけだった。

敷地駅で若林さんに迎えられ、直接正士さんへ。水窪から来た昔乙女4名が、久米さんと昼食の用意をしていた。

(昼) 五月ずし、イワシのフライ、コロケ、ジャガタ(小粒の石栗種のジャガイモ)の煮ころがし、大根のきんぴら、山椒の佃煮、キュウリ(康江さん提供、山形は新庄の味噌煮)、サクランボ(同、康江さんから)。

作業は、浅田さんの田んぼ跡と佐野光信さんの敷地川沿い柿園の草刈り。西田さんの娘さんからトラモロコシ(甘き娘?)をいただく。

夕飯、「あらたまの湯」へ。戻って夕食。

(夕) 刺身(ヤナギタコ、剣先イカ)、キュウリ(竹中さん提供)と長芋のモズク酢、ナスとピーマン(これも竹中さんから久米さん)のひき肉炒め、枝豆、キャラuzzi、ヒジキ煮、おにぎり。

尾上美智子さんから、700号記念と尾上さんの柿の園の写真が2セット届き、1セットは水窪へ、もう一つは啓史さんに托して正士さんへ。また、内田美智子さんからは、お菓子などもカンパをいただいた。ありがとうございます。

一人、母屋で寝る。夜中、足がツレ。



康江さん

ボク

竹中さん
尾上さん

菜々子
17

康江さん

山崎さん

6月25日(水)、晴。週間予報は雨もようだったが、好転。ありがたい。

朝から啓史さんが家の片付けに来る。お茶のやりとりは、元氣里山グループとしたそうだ。一年前はやりない感じだったが、よいこと。

昨夜、正士さんを見舞った啓史さんによると、食欲がなく、不意に眠り込むなど衰えが目立つとのこと、気がかりだ。

午前、坂上利子さん宅周辺、柿園の草刈り。皆のがんばりで昼までに終る。その間、康江さんと久米さんが用意してくれた昼食は、

(昼) 冷製パスタ(トマトとチキン、バジルの2種)、ポテトサラダ、キャベツと枝豆のサラダ。ぼくには及ぶもつかない食事で、ありがたい。

午後、佐野光信さんの道路際、道路の反対側の柿園、敷地川沿い柿園の草刈り。「あらたまの湯」で汗を流し、啓史さん、青山さんと夕食。

(夕) 小アジの南蛮煮、肉豆腐、ササミとキュウリの春雨和え、シロキの明太子和え、ゴボウの梅煮、夏野菜炒り(ヤチンク久米さん提供のキュウリ、ナス、インゲン、ピーマン、玉ネギ)、イカとタコのアヒージョ。そうめんを久米さんのお返しとだして。夜、部屋で寝ていると、真暗な中、なにやら大きな虫が顔にとびつき、びっくり。

6月26日(木)、曇り。昨日、啓史さんからきいた正士さんの様子が気になり、この日の作業をとりやめ、急遽、見舞いに。若林さんの車を久米さんが運転し、浜松市の聖隷三方原病院ホスピス棟へ。

4ヵ月起の入院でほとんど歩くこともせず、筋力が低下して思うように身動きできないとのこと。幸い痛みはなく、精神はしっかり。しばし皆と言葉を交わし、スマートフォンで写真を撮り合う。本人、「そろそろ」との認識をボロッと。

一人ひとり握手して別れる。なんだか胸が詰まって、思うように言葉が出なかった。30年間、ほんとうにありがとう。正士さんとお会ったおかげで、ぼくの後半生が充実したよ。この夏も暑くて心配だけど、ゆったりとした気持ちで、楽しかったことを沢山思い出してのり切してほしい。また会える折を待っているからね。

戻って、元氣里山の市川さんと一緒にそうめんをいただき、敷地駅まで送ってもらい、手を振って別れる。

